

タスカルーサ市派遣習志野市青少年訪問団の 結団式が行われました

タスカルーサからの訪問団が日本を離れ、今度は習志野市の高校生がタスカルーサを訪ねる番です。派遣高校生たちはこれまで数回に渡る研修会など準備を重ねてきました。そして7月18日、派遣メンバーを中心に関係者がサンロード6階大会議室集合して結団式が行われました。

今回のNIAの派遣事業は、習志野市内4校（東邦大学付属東邦、習志野、津田沼、実籾）の高校生からなる初めての派遣団として、注目が集まっていました。

式は、まずNIA会長、続いて習志野市長、市議会議長による挨拶がありました。大きな収穫とともに元気で行ってきてほしいという激励の言葉が贈られました。

次に派遣団のメンバーが紹介され、山口団長初め、NI-youth1名、付添教員2名、市内高

校生20名の全24名が一人ずつ名前の読み上げに応えました。続いて派遣団を率いるNIAの山口団長による挨拶がありました。そして派遣高校生を代表して、習志野高校の近藤洸大君が力強い決意と関係者への感謝を述べました。最後に派遣団全員の記念撮影を行い、結団式を終えました。

一行は7月24日に成田を出発して、アトランタに立ち寄ってからタスカルーサに到着。11日間の滞在の後、再びアトランタを経て8月6日に帰国の予定です

結団式終了後も派遣生たちは、先生や家族から注意を受けたり、お互い同士で情報交換や確認をするなど、間近に迫る出発に緊張感がうかがえました。それとともにどの顔にも期待を含んだ笑みがあふれていました。



結団式に臨んだ派遣団と関係者のみなさん